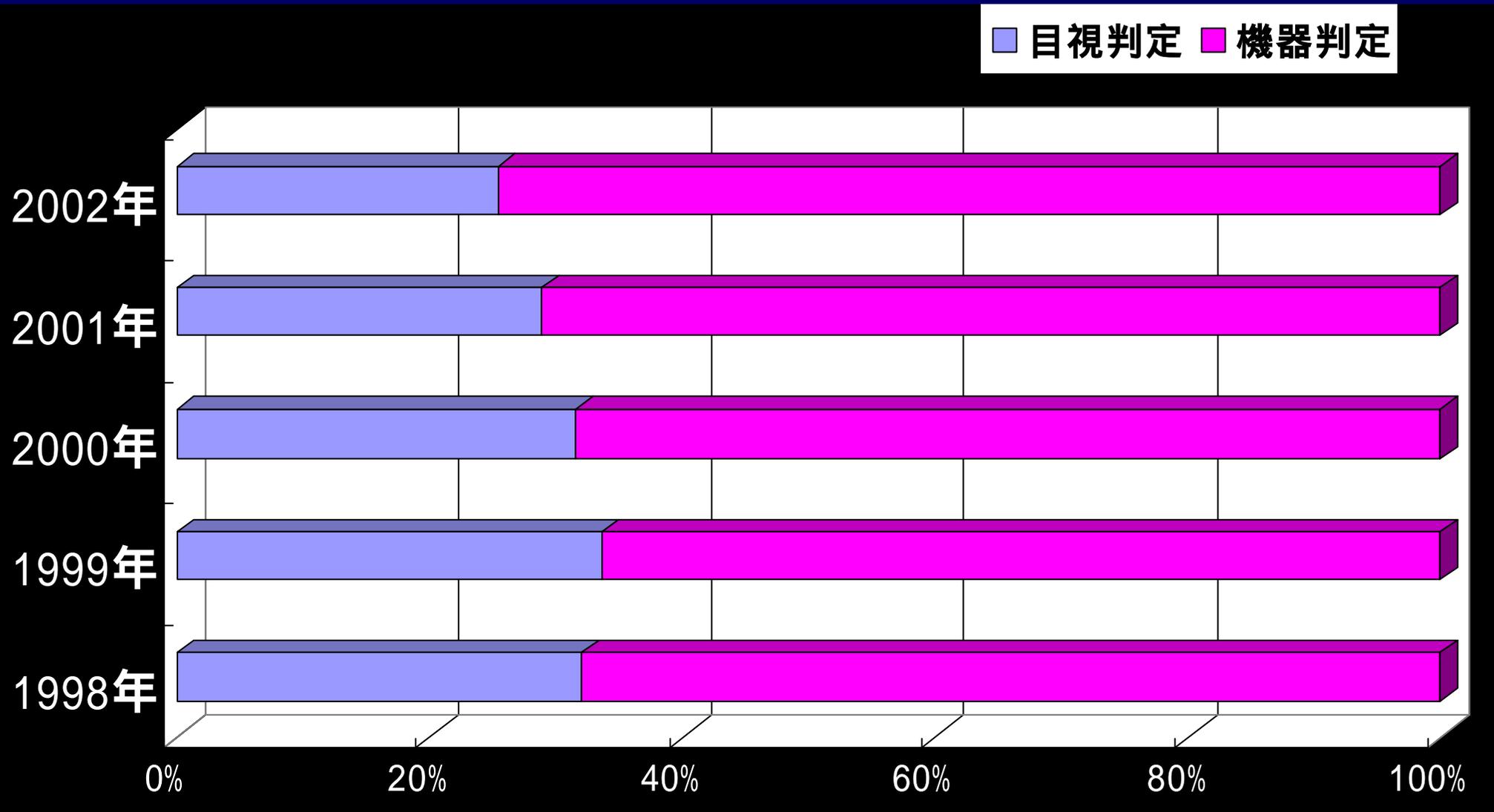


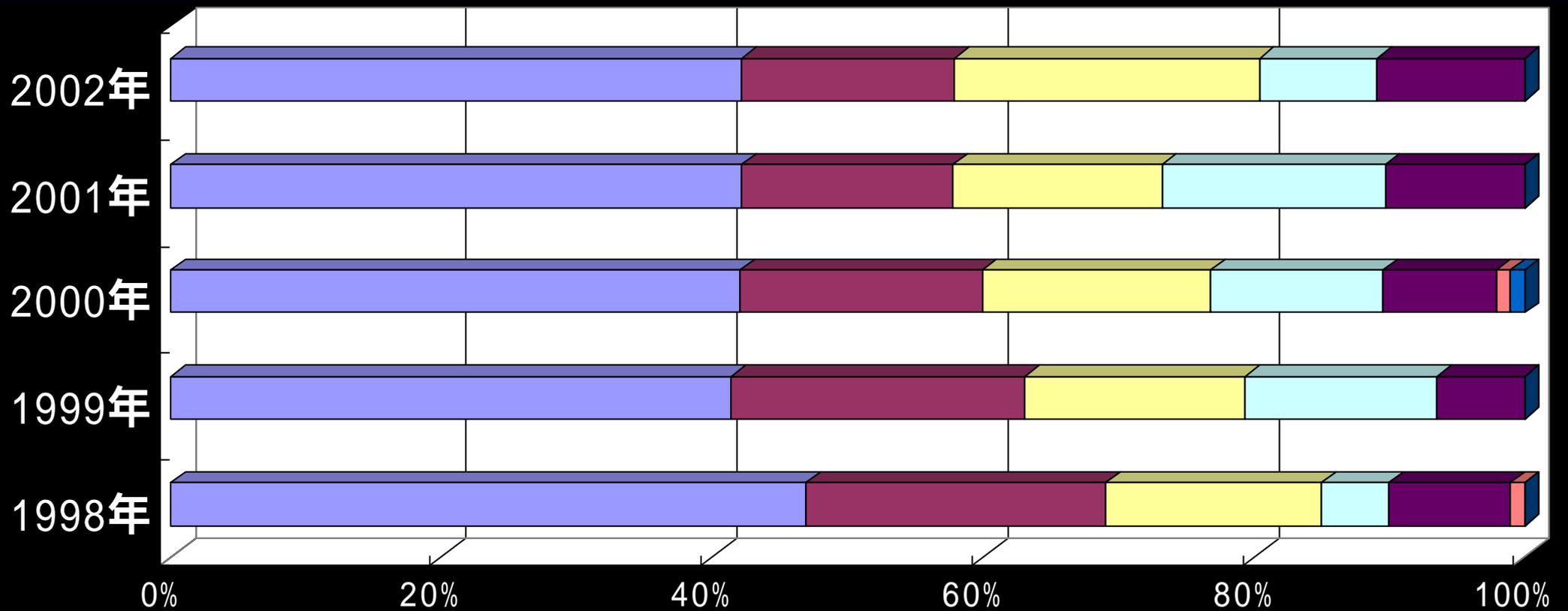
平成14年度千葉県臨床衛生検査技師会 一般検査部門精度管理集計報告

古谷公英 渡辺一博 佐瀬正次郎
久代真也 水野由喜子 田中雅美
伊瀬恵子 (一般検査研究班)

尿試験紙判定法の推移



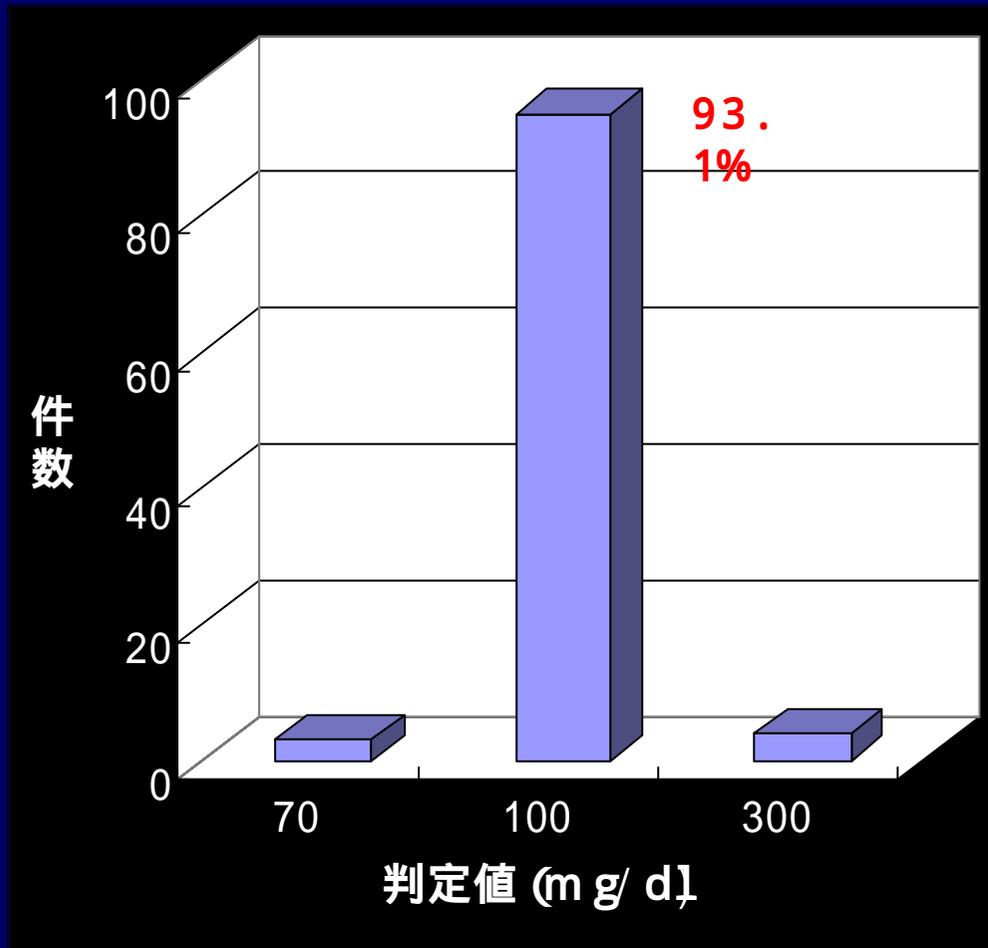
尿試験紙メーカー別採用率の推移



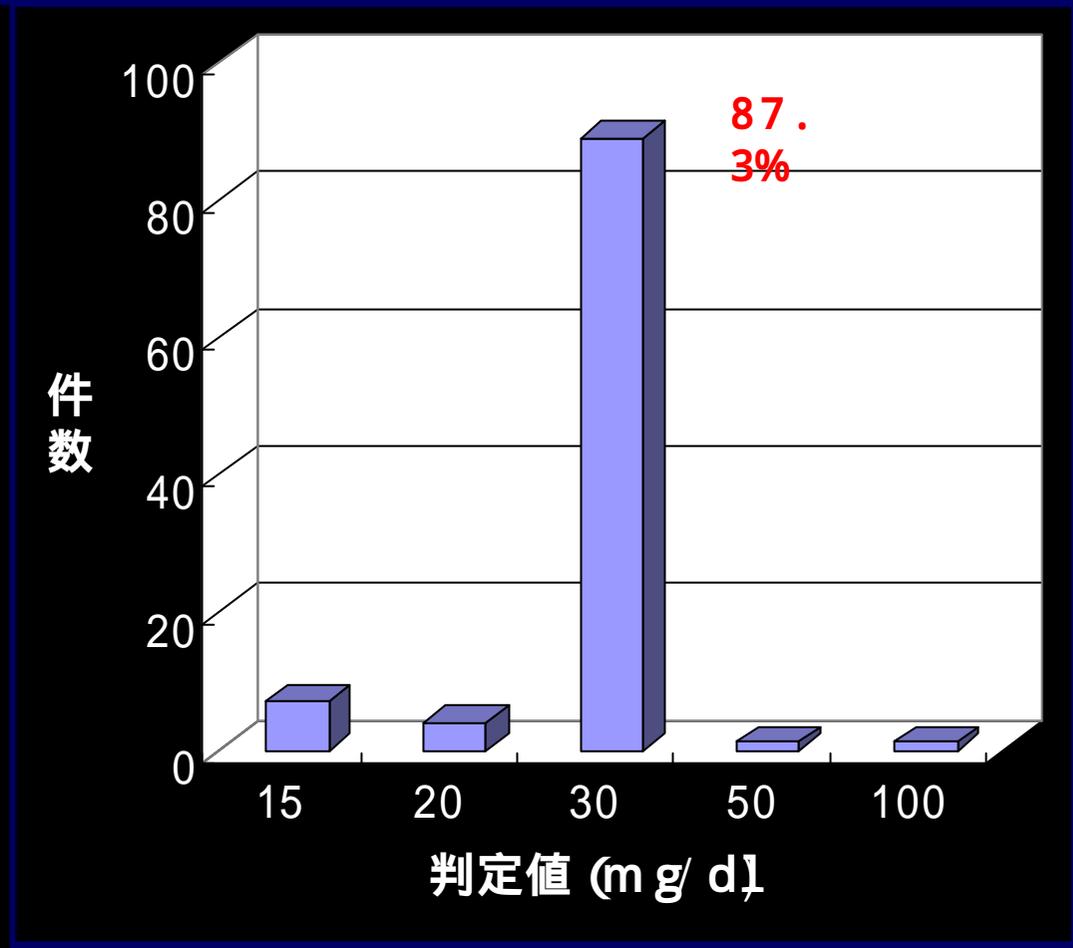
■ バイエルメディカル ■ アークレイ ■ 栄研化学 ■ 和光純薬
■ シスメックス(ロシュ) ■ 藤沢薬品 ■ 三和化学

尿蛋白定性検査回答集計 (102件)

試料 A

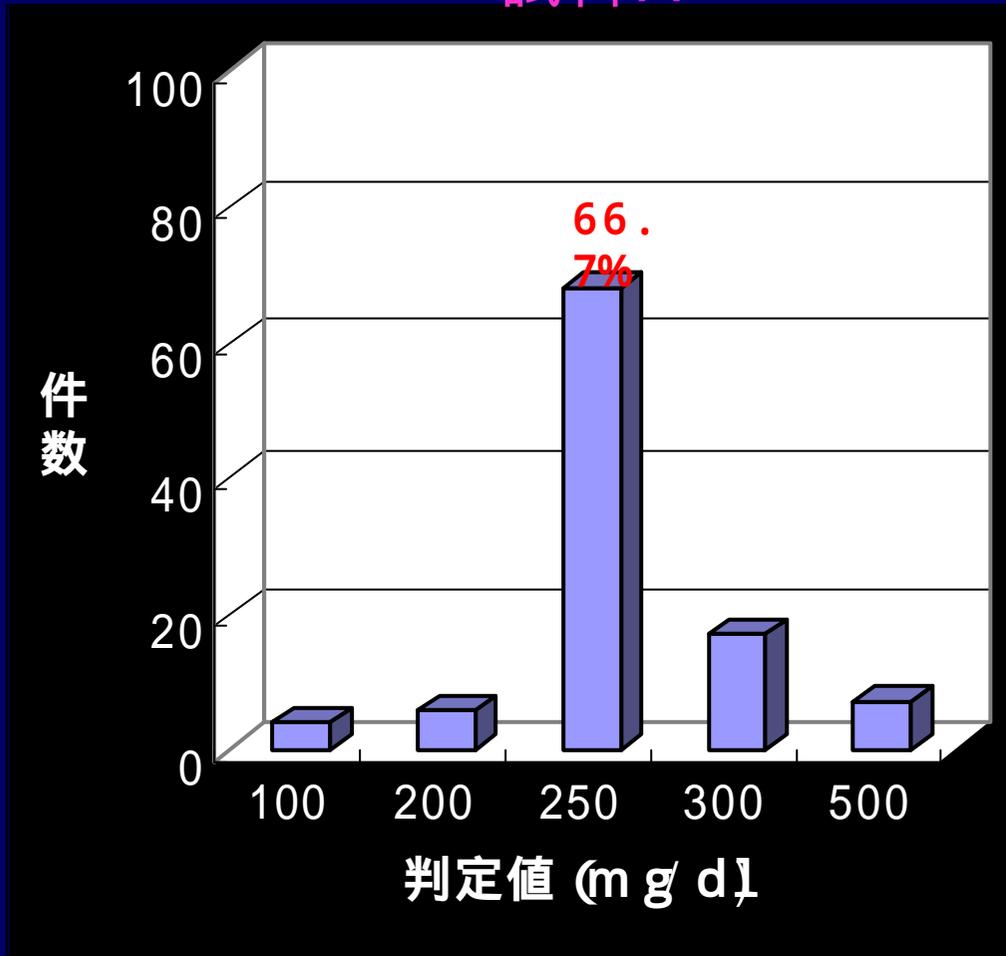


試料 B

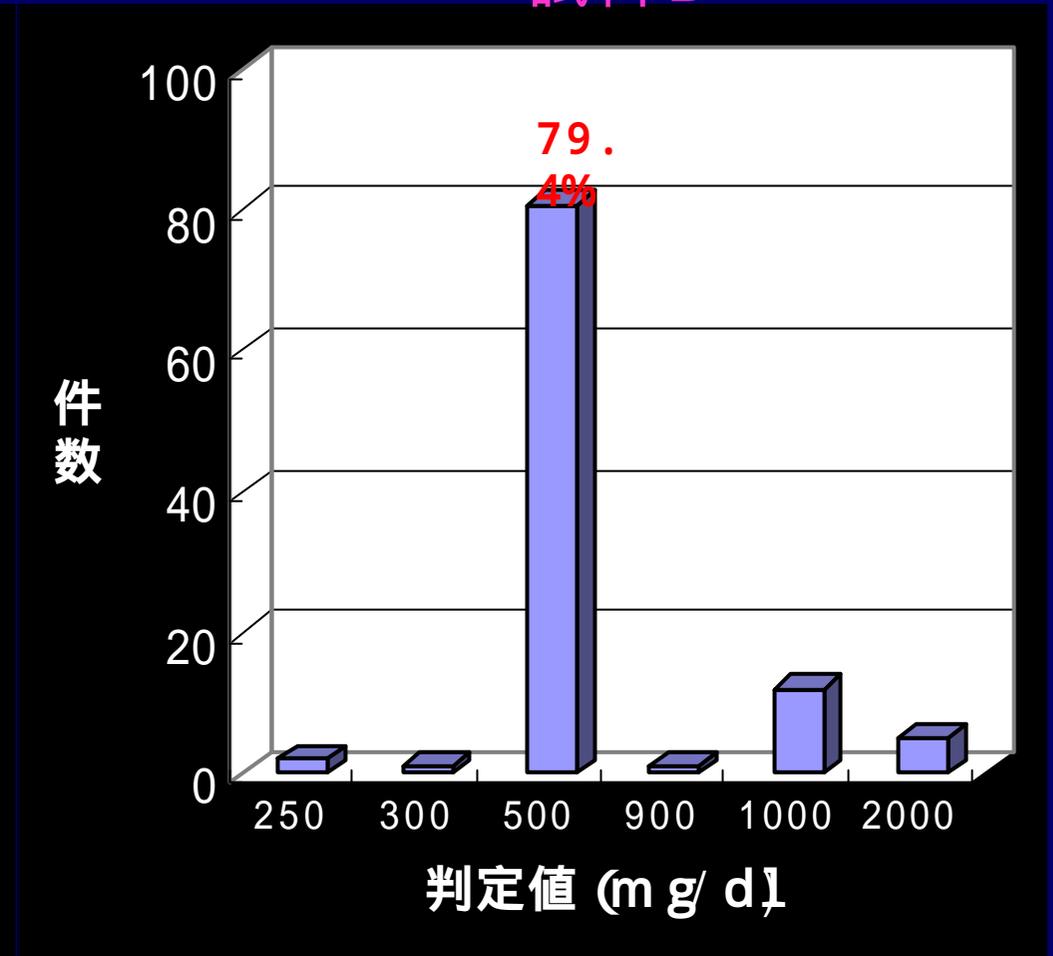


尿糖定性検査回答集計 (102件)

試料 A

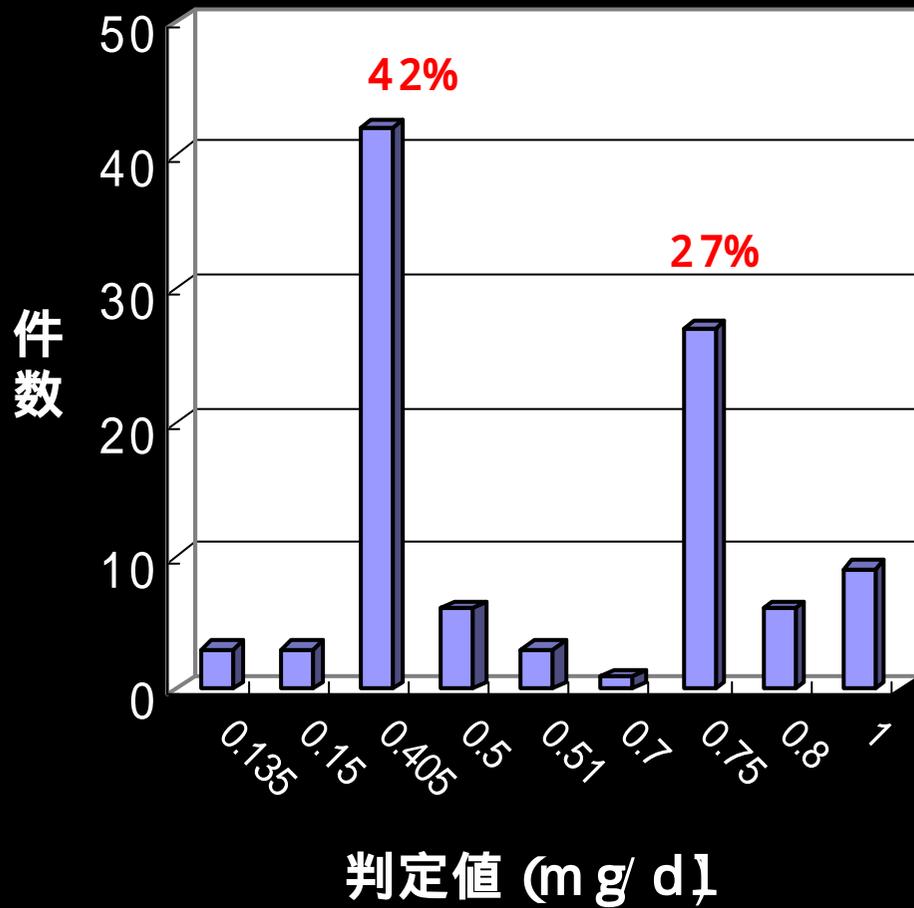


試料 B

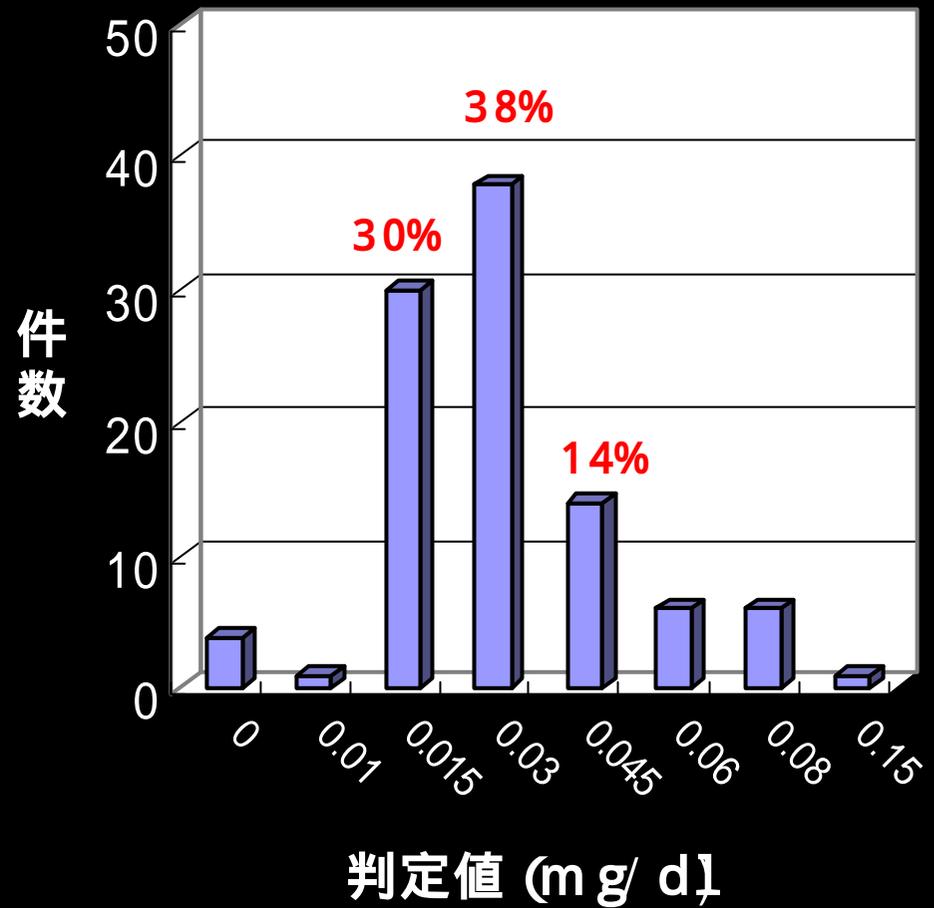


尿潜血定性検査回答集計 (100件)

試料 A



試料 B



精度管理の目的および試料

精度管理の目的

正確性と施設間差の把握

精度管理の試料

蛋白・糖定量：2濃度

目標値

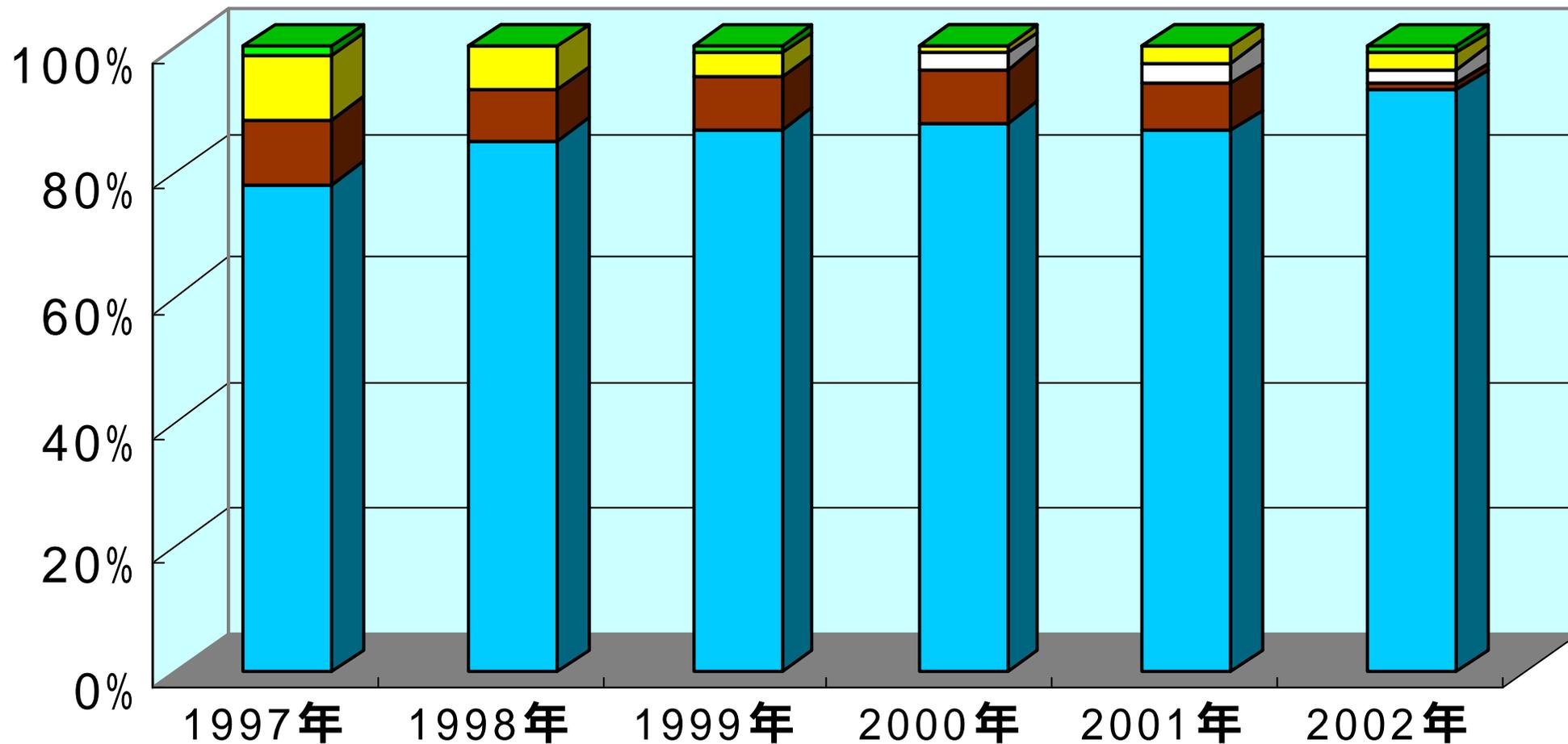
蛋白定量

NIIST-BSA927で評定したヒトアルブミンを標準液としHPLC

糖定量

グルコース標準血清で検定した酵素電極法

蛋白定量方法別採用率の変遷

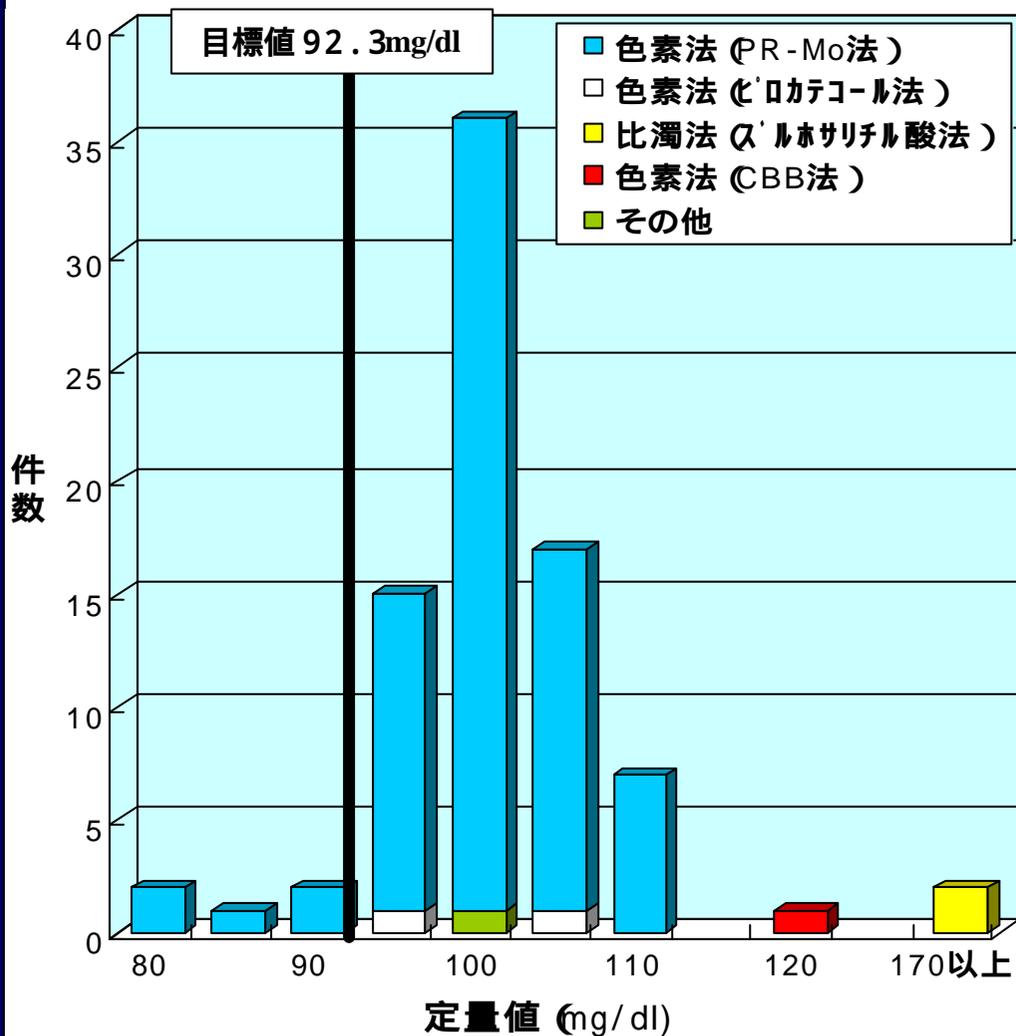


■ 色素法 (PR-Mo法)
■ 色素法 (ピロカテコール法)
■ その他

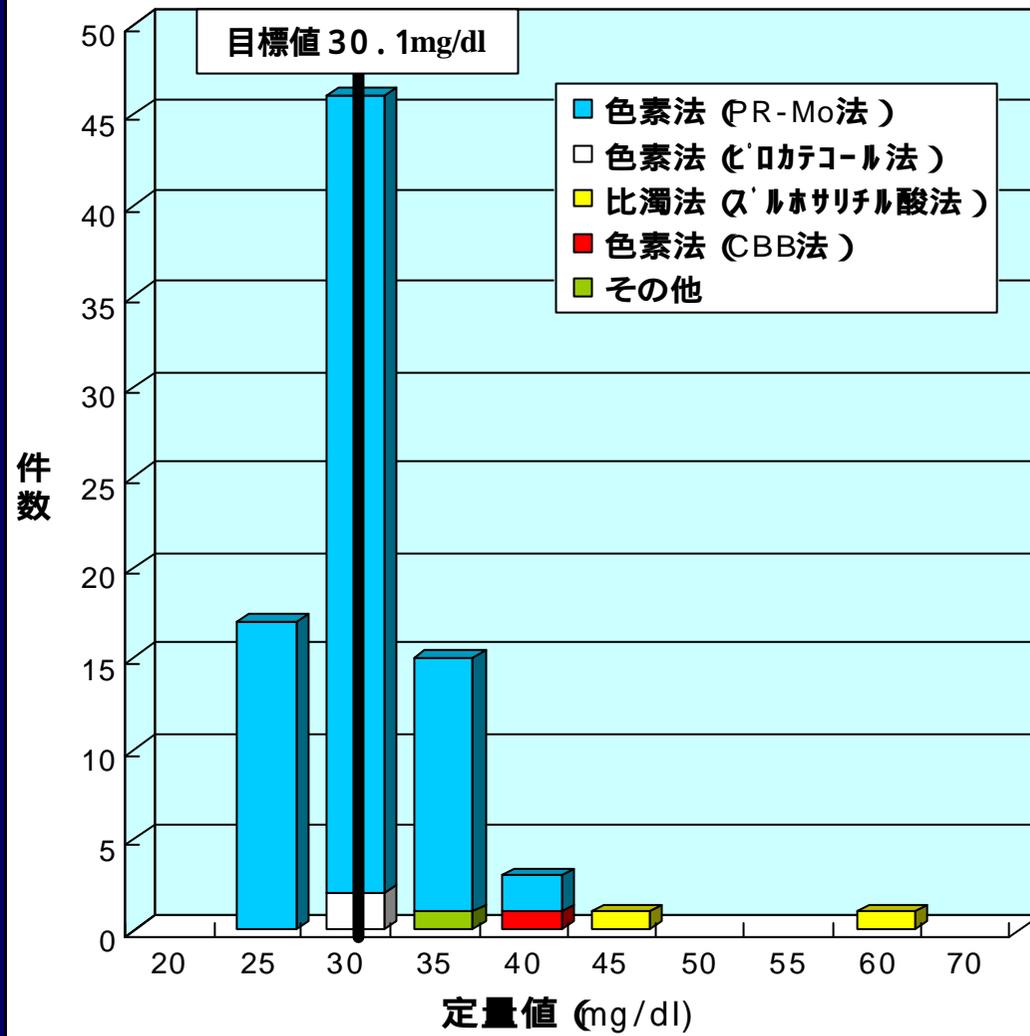
■ 色素法 (CBB法)
■ 比濁法 (スルホ、トリクロ法)

蛋白定量方法別ヒストグラム

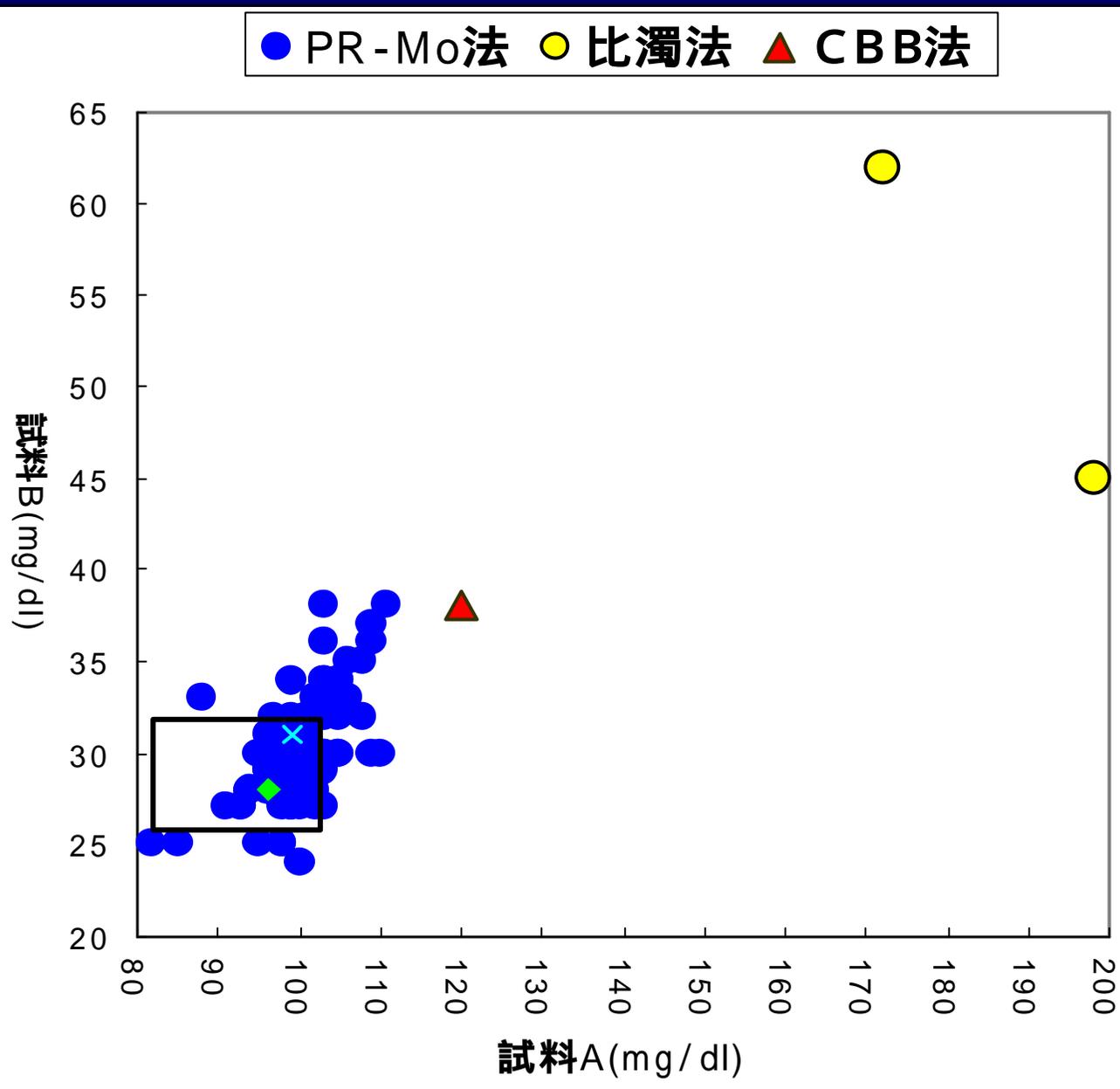
尿蛋白定量方法別ヒストグラム (試料A)



尿蛋白定量方法別ヒストグラム (試料B)



蛋白定量ツインプロット



許容範囲施設割合

RR-Mo法

	許容施設率
試料A	67.5%
試料B	75.2%
試料A、B	59.7%

CBB法

試料A、B	0.0%
-------	------

比濁

試料A、B	0.0%
-------	------

蛋白定量正確さの評価

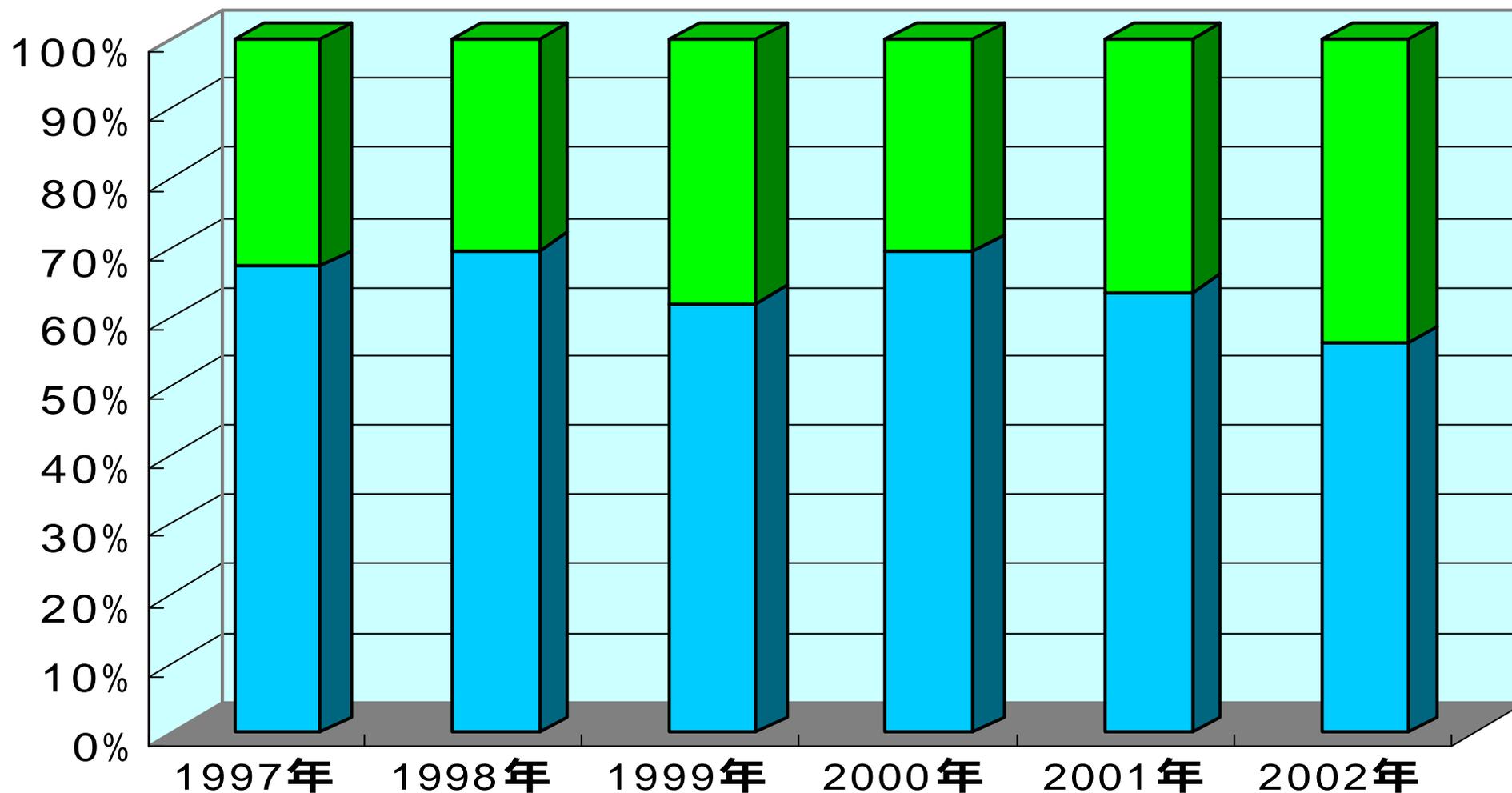
試料 A

測定方法	平均値(mg / dl)	正確度 (偏り)%
PR-Mo法	99.8	8.1
ピロカテコール法	99.5	7.8
CBB法	120.0	30.0
比濁法	185.0	100.4
HPL法標定値	92.3	

試料 B

測定方法	平均値(mg / dl)	正確度 (偏り)%
PR-Mo法	30.1	0.0
ピロカテコール法	29.0	-3.7
CBB法	38.0	26.2
比濁法	53.5	77.7
HPL法標定値	30.1	

糖定量方法別採用率の変遷

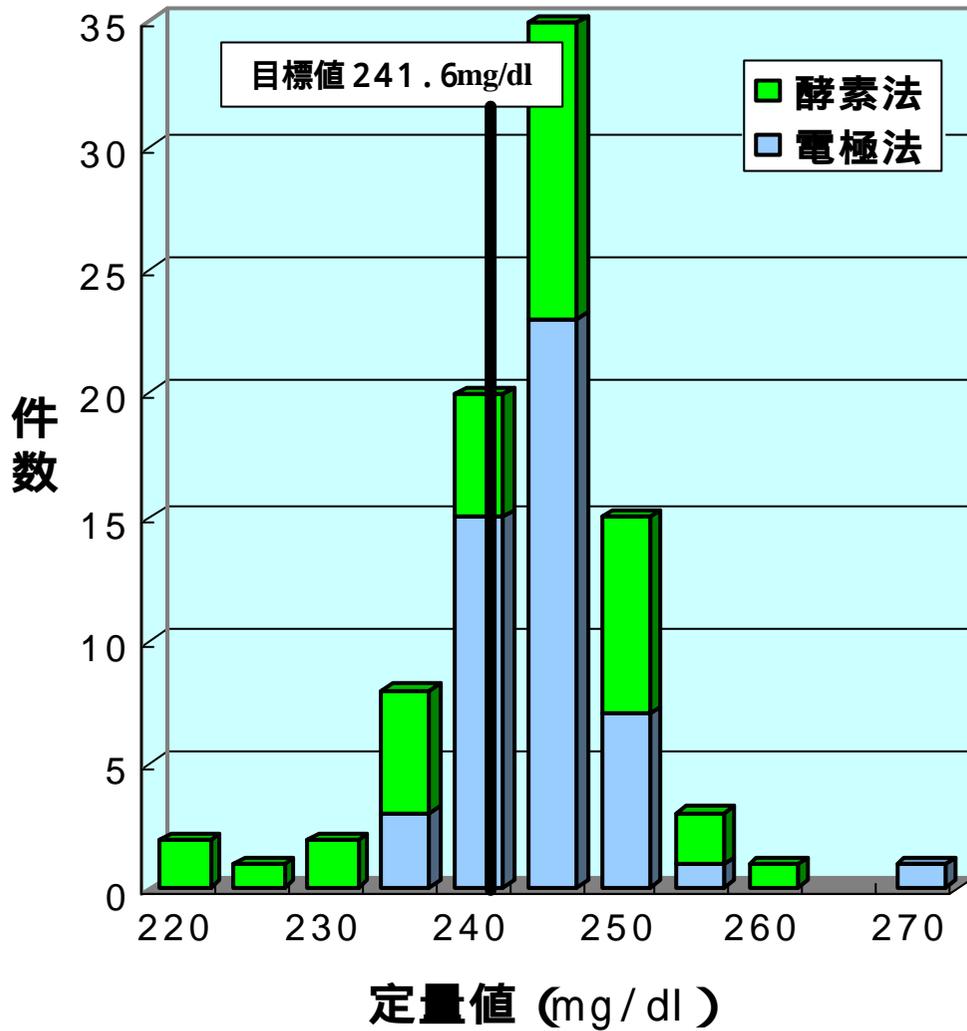


■ 電極法

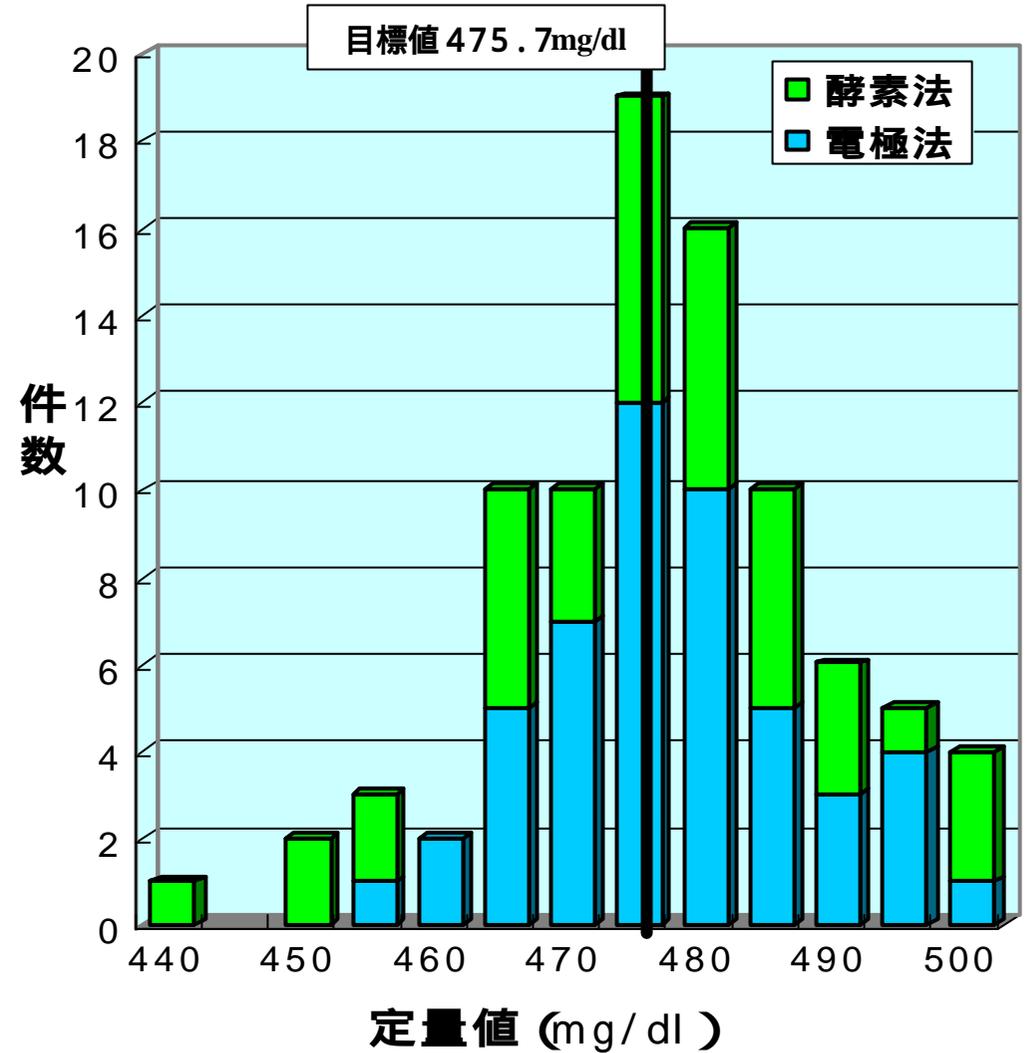
■ 酵素法

糖定量方法別ヒストグラム

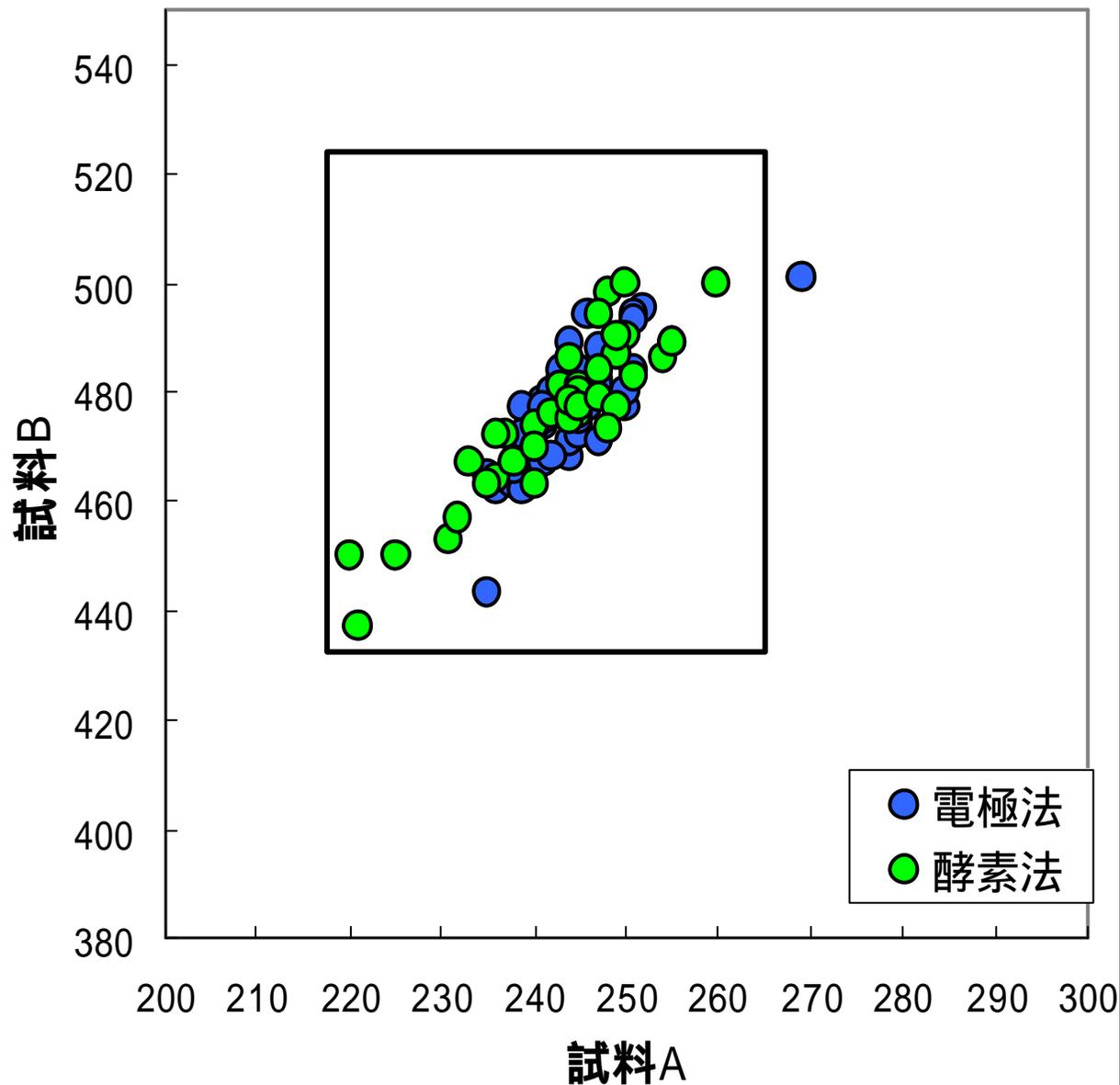
尿糖定量方法別ヒストグラム (試料A)



尿糖定量方法別ヒストグラム (試料B)



糖定量方法別ツインプロット



許容範囲施設割合

電極法

	許容施設率
試料A	98.0%
試料B	100.0%
試料A、B	98.0%

酵素法

	許容施設率
試料A	97.4%
試料B	97.4%
試料A、B	97.4%

糖定量正確さの評価

試料 A

測定方法	平均値(mg/dl)	正確度(偏り)%
電極法	244.50	1.20
酵素法	242.80	0.50
検定電極法標定値	241.60	

試料 B

測定方法	平均値(mg/dl)	正確度(偏り)%
電極法	477.8	0.44
酵素法	475.6	0.02
検定電極法標定値	475.7	

評価の設定

定性検査

A:目標値

B:目標値 ± 1ランク以内

C:A, B以外

潜血は目標値の設定がないため,今回は評価せず

定量検査

A:目標値 ± 10%以内

B:目標値 ± 20%以内

C:A, B以外

評 価

定性検査	蛋白 (102件)		糖 (102件)	
	試料 A	試料 B	試料 A	試料 B
A評価	95	91	91	82
B評価	7	11	11	20

定量検査	蛋白 (84件)		糖 (89件)	
	試料 A	試料 B	試料 A	試料 B
A評価	55	62	87	88
B評価	24	16	1	0
C評価	5	6	1	1

まとめ

- 1 .蛋白質定量は、PR-Mo法を採用する施設が昨年度よりもさらに増加し92.8%となった。
- 2 .PR-Mo法は、許容範囲を目標値 $\pm 10\%$ とすると67.5~75.2%の施設が許容範囲内であった。
一方、比濁法は目標値と著しい解離を認めた。
- 3 .糖定量は、電極法は56.2%、酵素法43.8%と電極法が昨年度より7.3%減少した。
- 4 .電極法・酵素法とも目標値に対して97.4~100%の施設が許容範囲内であった。